

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2019.9.20

43

秋 期
企 画 展



古写真はわたしたちに何を伝えるのか？

— 写された幕末・明治の北区の名所 —



王子稻荷神社



滝野川の紅葉



飛鳥山花見

会 期：令和元年10月26日(土)～12月15日(日)

会 場：北区飛鳥山博物館 特別展示室・ホワイエ

開館時間：午前10時～午後5時

休 館 日：11月4日を除く毎週月曜日および11月5日(火)

観覧無料

古写真はわたしたちに何を伝えるのか？

— 写された幕末・明治の北区の名所 —



ロシェ撮影 王子の料理屋扇屋 (1859年)

このたび北区飛鳥山博物館は、秋期企画展「古写真はわたしたちに何を伝えるのか？—写された幕末・明治の北区の名所—」を開催するはこびとなりました。

幕末維新期の王子・飛鳥山・滝野川は日本人のみならず外国人の関心を集めた地であり、その名所の姿は、当時の先端技術であるコロジオン写真によって記録され、また意外なほど多くの写真が今に伝わっています。そのなかには、日本の写真史でもごく初期の1859年に撮影された王子の料理屋・扇屋の写真も含まれるなど、浮世絵などの絵画資料とは異なる景観情報に満ちています。本展示を通じてご来館のみなさまに、幕末維新期の写された名所の姿に触れていただき、地域理解の一助にでもなれば幸いに存じます。

協力者一覧(順不同 敬称略)

伊藤紀之 大野一郎 田村昌彦 田村政実 谷野 啓
あつぎ郷土博物館
一般社団法人日本カメラ博物館
おどりの空間(村 尚也 坂東栄鼓 西崎絵壬乃
花柳暉沙代 西崎櫻鼓 坂東鼓都奈 島 侑子)
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
東京都公文書館
LIGHT&PLACE 湿板寫真館(和田高広 青 秀祐)
長崎大学附属図書館
New York Public Library
Pitt Rivers Museum-University of Oxford

展示コーナー

- 1 幕末維新期の王子の料理屋
写真リアリズムと地域像
- 2 飛鳥山
湿式コロジオン写真が
写し出す19世紀の景観
- 3 王子稻荷
- 4 滝野川
湿式コロジオン写真で
撮影再現

展示付帯
事業

「肖像撮影体験！
—150年前の写真技法で写ってみよう—」
日時：令和元年11月30日(土)
午前10時30分～午後4時
会場：ホワイエ
撮影：和田高広氏
(ライト&プレイス湿板寫真館)
定員：5組(1組1名～3名)
※応募者多数の場合は抽選となります。
申込：往復はがきで11月14日(木) 必着

VOICE 意外に知られていない北区飛鳥山博物館の業務

北区では、文化財保護に係る調査・手続き・指定・指導・相談等を北区飛鳥山博物館が行なっている。

企画展示や講座の開催、資料収集、教育普及活動を通じて、北区の歴史や民俗・自然等に関する事柄を区民の皆様に伝えるという、普段、目にする機会が多い博物館の事業に加えて、文化財に係る広範な業務を博物館で担当していることは意外に知られていない。

これらは、「文化財保護法」や区・都の「文化財保護条例」に基づいて行なわれるもので、北区指定文化財はもちろん、区内に所在する国や都の指定文化財の手続き・調査・保護等に関する業務、埋蔵文化財関係の指導・手続き・考古資料の保管など文化財保護

に係る諸業務を主管している。また、赤羽自然観察公園に所在する「北区指定有形文化財(建造物)旧松澤家住宅」を保存・活用している「北区ふるさと農家体験館」の管理・運営も当館が行なっている。

平成31年(2019)4月から改正文化財保護法が施行され、過疎化や少子高齢化等の現状も踏まえた「地域における文化財の総合的な保存・活用」へと、文化財保護行政の新たな方向が定められた。車の両輪のように、展示・講座等の情報発信機能や資料の保存・管理機能と併せて、文化財の調査・研究・保護事業に係る機能が有機的に連動することで、北区の歴史・民俗・自然等の発信ベース(拠点)としての北区飛鳥山博物館の可能性も、より広がるのである。(山口)

北区にあった村々と 土地利用

工藤 晴佳（当館学芸員）

現在の東京都北区では、交通網や技術の発達などによって、日本全国のみならず世界中のものが手に入る。さらにインターネットの発達により誰もがどこでも情報を求めることができ、都市部の生活はかつてのような地域による多様性や個性が薄れ、均質化しつつある。しかし、地域に目を凝らしてみると、地形や風土の違いにあわせ、それぞれの地域でたくましく生きていた昔の人々の生活が浮かび上がってくるのである。

北区にあった村々と土地利用の様子は、東京府や埼玉県によって編纂された『東京府志料』・『東京府村誌』・『武蔵国足立郡村史』などの地誌類をみていくことで知ることができる。

上記の地誌には各町村の税地の反別（面積）が記されており、その中で「田」の割合が町村の反別の50%を超える町村が岩淵本宿町、神谷村、豊島村、堀之内村である。これらの村はすべて、かつて荒川に面した低地部分にあった町村である。さらに、「畑」の割合が村の反別の50%を超える村は、袋村、赤羽村、稲付村、下村、上十条村、下十条村、船方村、滝野川村、西ヶ原村、中里村、田端村である。下村と船方村を除いてこれらの村は、台地上または村の面積の半分以上が台地上に位置している村となっている。一般的に低地部は水を得やすいため、水田の割合が多いことはうなずける。

また、土地利用の違いには土壌の質も大きく関係している。低地部の町村では、荒川が氾濫した際に運んでくる「真土」という肥沃な土壌が堆積しており、『武蔵国足立郡村誌』によれば、「薄赤真土にて稲麦蔬菜に宜し」と記されている。一方、台地部は野菜作りに適した「赤土」という鉄分を多く含んだ関東ローム層が広がっていたため、袋村・赤羽村・上十条村・下十条村・滝野川村一帯では江戸時代から大根などの根菜類を中心とした野菜の栽培が盛んであったといわれている。

しかし、低地にある村の中でもそれぞれ様子は異なる。浮間村は享和4年（1804）に作成された「明細書上之事」に「皆畑之村方二而田ハ一切御座候」と記されており、北区で唯一田の無い村であったことがわかる。その代わりに、荒川が運んでくる土により、カヤがよく育つ土地であったため、「萱畑」が56町8反8畝9歩も広がっていた。カヤは洪水にあっても枯れないため、浮間村にとって現金収入を得る重要な作物であった。さらに、下村・神谷村・豊島村は農業を営むかたわら、荒川に面しているという地理的な条件を活かし、下肥舟に従事する家が特に多く、「半農半肥」を言われるほど村の経済を支えていた。

以上のことから、この北区という狭い地域の中でも、それぞれの村が地形や風土に合わせて「違い」のある生活をしてきたことがわかる。「違い」は個性や特色を生み出す種でもある。この「違い」を「魅力」に変えて、地域に発信していくことも、地域博物館である北区飛鳥山博物館の使命であると身が引き締まる思いである。



二万分の一迅速測図原図復刻版「東京府武蔵野国北豊島郡志村」・「東京府武蔵野国北豊島郡王子村」・「埼玉県下武蔵野国北足立郡川口町之図」（1880年5月測図、日本地図センター）

夏休みわくわくミュージアム★2019

—ひと夏の体験!?

博物館で思い出づくり—

当館では7月20日～8月25日に、毎年恒例の「夏休みわくわくミュージアム」を開催しました。この時期は、博物館内が子ども向けに様変わり。自由研究に役立つ展示会や体験講座を開いたほか、調べものや自主学習ができる「学問のスヌメコーナー」、小さいお子さんが楽しめる「絵本&ぬり絵のコーナー」を特設しました。本イベントの様子を、当館宣伝隊長の「コン吉」がレポートします。



特別展示室



夏休みわくわく展示「コン吉の、発見! アニマル大集合!」は、はく製や民俗資料など、普段収蔵庫に眠っている中から「動物」にちなんだ資料を一堂に集めた展示なんだ。展示室に入って右側の「雨乞い竜神」はインパクト抜群。おいらもドキドキしながら展示をみたっけ。

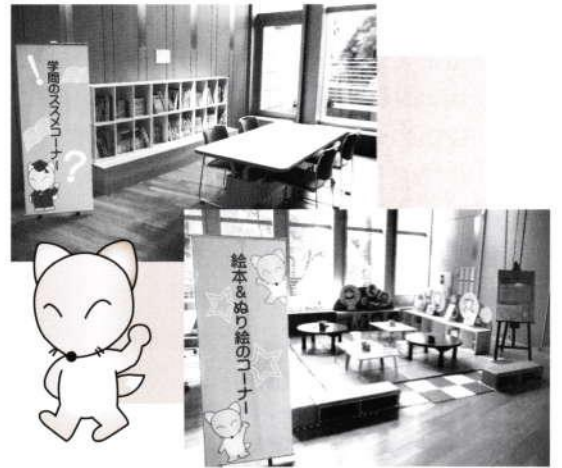


そうそう!なんと会期中、展示室から5匹の動物たちが逃げ出しちゃったんだ。連動企画「コン吉からの指令 逃げたアニマルを探せ!」では、特別展示室から飛び出して館内に潜んでいる動物たちをみんなに探してもらったよ。動物たちは時折隠れ場所を変えるので、何回も足を運び、参加してくれた小学生もいたとか。みんな見つめてくれてありがとう。

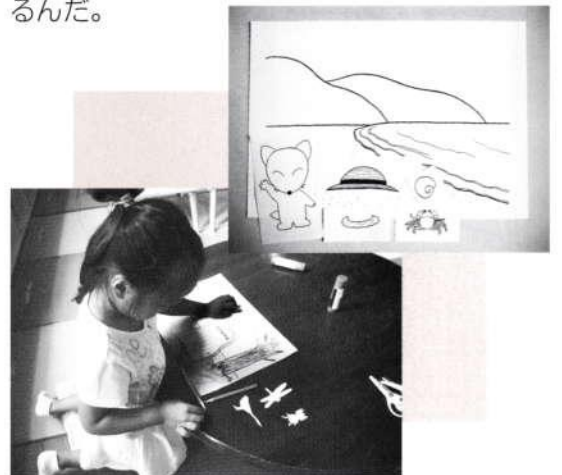


ホワイエ

「学問のスヌメコーナー」では、北区の歴史や文化・自然に関する図書を集めたよ。広いテーブルがあって、自由研究の調べものにもってこいの場所。真剣な顔つきで調べものをしていたみんなは、しっかりとまとめ上げられているといいな。



「絵本&ぬり絵のコーナー」は小さな子たちで賑わっていたよ。ここでできるぬり絵は博物館のオリジナルなんだって。4種類の台紙と30種類以上のパーツがあって、それらを組み合わせて自分だけのぬり絵に仕上げるんだ。



体験学習室ほか

夏休みわくわくミュージアムでのイベントはまだまだあるよ。「夏休み土器づくり教室」や「チャレンジ! 昔の手仕事～藍染」などの体験講座さ。全部で13講座28回を開催したんだよ。会期内のほとんど毎日、何かしらの体験講座があった計算さ。



夏休み土器づくり教室



まがたま
夏休み勾玉づくり教室

丸みを出すのが難しいね…



うちわ
和のデザインで団扇づくり



江戸の縁起物【絵馬】を作ろう!



あんどん
牛乳パックで灯づくり



チャレンジ!
昔の手仕事～藍染

すてきな模様っ



はくぶつかん探検隊



へんしんっ! やよいじん

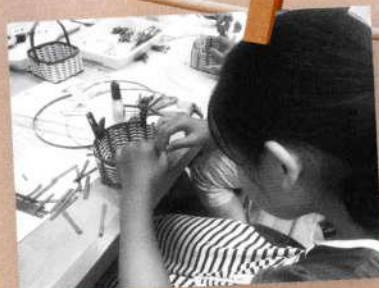


親子で浮世絵鑑賞教室



昔のおもちゃを作って、
いっしょに遊ぼう

割りばし鉄砲で、的をよ〜く狙って!



チャレンジ! 昔の手仕事
～カゴを編む



夏休み縄文人なりきり体験教室

上手にクルミを割れるかな?



博物館オリジナル・ブローチを作ってみよう

もっと知りたい!

常設展示 ちょっと気になる
この一品

えん めん けん
円面硯

常設展示室の「律令社会と豊島郡衙」にある資料で、北区御殿前遺跡より出土した円形の硯です。円面部分の一部ならびに側面の丸みをおびた縁の一部が見つかりました。円面硯は上部の平坦面で墨をすったことから、出土した資料の円面部分は、触るとほかに比べてツルツルしています。これら円面硯は奈良・平安時代の主に役所や寺で使用されたものです。

当時の行政区分において、北区は武蔵国豊島郡に属していました。各郡には「郡衙」と称する役所が設置され、豊島郡の役所「豊島郡衙」は、現在の西ヶ原に置かれました。古代の役所に勤める役人にとって木簡に書いた誤字などを削る「刀子」とともに、「硯」ですった墨を使って文字を書く「筆」は欠かせない道具でした。ところが既にネット社会の昨今、鉛筆で文字を書くことすら疎遠になりつつあります。特に筆で文字を書くのは、学校の習字の授業や年賀状を書く時くらいになりました。鉛筆やペンなどに比べて筆の字は、トメハネといった部分でその文字を書く本人の個性が投影されたり、直筆の手紙などでは書いた相手の気持ちが文字で読み取れたりもします。

多くの資料はパソコンソフトで作成、手紙もメールやSNSが当たり前になってしまった今日、未来に残っていくのであろう私たちの資料もそんな探求心をくすぐるようなものであってほしいと願うものです。

(谷口)

出土遺物

復元

写真にみる

あの日

あの時

戦禍を逃れ、親元を離れて

昭和19年(1944)夏、太平洋戦争による空襲が激しくなるなか、東京都など13都市の初等科3年から6年までの児童を近接する県に疎開させることになりました。東京都では7月10日に学童集団疎開の実施要領が発表されましたが、当時の王子区は対象児童が約9300人と東京都区部で3番目に多く、全員を僅か一ヶ月で疎開させることは前代未聞の大仕事となりました。各学校は父兄への説明会や児童の身体検査、現地視察、荷物搬送などに追われながらも、8月8日から31日までの間に群馬県内に割り当てられた疎開先へ次々と旅立ったのです。

写真は王子第二国民学校(現 王子第二小学校)の疎開児童が群馬県下仁田町に到着した際の記念写真です(上図は部分拡大)。記録では同校の下仁田町への疎開児童は計193人ですが、写真で確認できるのは140人程。「歓迎 下仁田町 疎開学童諸君 小坂村青年学校」と記した看板を中央に置き、歓迎のしるしに配られたのか、どの子も大きなトウモロコシを抱え、あるいは高々と掲げて、楽しげな笑顔を見せています。

当初は遠足気分だった子どもたちも、数日もすればホームシックに苦しみました。また学寮(宿舎)では学業よりも軍隊式の鍛錬や勤労奉仕に明け暮れ、食糧事情が厳しくなるなか、子どもたちは空腹や疲労、そしてシラミとも戦わなければなりません。戦争の最中、親元を離れた子どもたちの寂しさや辛苦は計り知れません。それだけに彼らの屈託無い笑顔が愛しく、切なく映る1枚です。

(久保栞)



『生と死の考古学 縄文時代の死生観』

山田康弘著 東洋書店 平成20年(2008)11月刊行

学芸員の本棚

※『縄文人の死生観』に改題し、平成30年(2018)に
角川ソフィア文庫から刊行

本著は著者の発掘経験や研究成果を基に書かれている。学生の頃縄文時代のお墓を調査したこと、それがきっかけで墓や骨の研究をライフワークとすることを決めたことなど、プロローグから実におもしろいエピソードが書かれている。考古学というと遺跡を発掘し、土器が出土すると、その出土のしかたや埋もれ方から、それが自然に壊れ埋もれたのか、意図的に壊し埋めたものなのかを判断する。しかし、ことお墓となると意図的に埋葬したのは明らかだ。つまり、お墓からは死者を埋葬した人の気持ちや、当時の風習などが読み取れるのだ。著者はその埋葬の仕方、例えば単独の埋葬なのか、大人と子供の埋葬なのか、あるいはお墓に副葬された装飾品と埋葬された人の性別との関係といったことに注目し、分析を行っている。そしてそこから死者がどんな一生を経たのかを読みとり、また病や出産に対する縄文人の考え方などを明らかにしている。

考古学というどうしてもモノの機能や製作技法、あるいは社会背景などがテーマとなることが多い。しかし、人に焦点を当てて、どんな死生観を持っていたのかを探る魅力を本著は伝えてくれる。

本著は平成29年(2017)の企画展「縄文人の一生」のヒントを私に与えてくれた、そんな一冊である。むずかしい学術的なことが平易でわかりやすく書かれているので、ぜひご一読を。(鈴木)

博物館インフォメーション

博物館実習生が奮闘しました

今年の夏も、学芸員資格取得を目指す博物館実習生4名が慣れない現場で奔走しました。常設展示室ではこれから1年間、実習生渾身の展示資料解説パネルを掲示します。ぜひご覧ください。



新しいミュージアム・グッズを考え中

常設展示が無料でご覧いただけます

ふるさと北区区民まつり(10月5・6日)と文化の日(11月3日)は、常設展示観覧料が無料になります。すでにご覧いただいている方もそうでない方も、この機会にぜひご利用ください。

人物往来

3月31日をもって、開館当初より自然地理分野を担当してきました中野守久学芸員が退職いたしました。

また4月1日より、谷口とし学芸員が着任いたしました。すでに講座等で活躍中です。今後ともよろしく願い申し上げます。



北区の昔を伝える資料や写真を探しています!

当館では、北区内で使われていた生活用具や、北区内を写した懐かしい写真など、昔の暮らしぶりがわかる資料を探しています。

「こんなものでもいいのかしら?」という方も大歓迎です。ぜひ当館までご一報ください(TEL: 03-3916-1133)。みなさまからのご連絡をお待ちしております。

照り映える
あたらひさき茅
古民家わらわ

博物館 学芸員 リレーエッセイ いろは歌留多

赤羽自然観察公園の一角に、茅葺きの古民家が建っています。浮間で約180年前に建てられた民家「旧松澤家住宅」を、公園内に移築復原したものです。公園の東門を入ると、池と雑木林、水田、そして木立ちの中に茅葺きの古民家が見えます。ゆるく蛇行した小道をたどれば1分ほどで到着します。かつて家族が寝起きた古民家は、江戸時代の農家の暮らしを伝える建物として区の文化財に指定され、「北区ふるさと農家体験館」として、年中行事や農家の暮らしを体験できる施設になっています。

建物の管理を行っている北区飛鳥山博物館では、古民家が移築復原されてから10年以上がたち、屋根に傷みが出てきたため、昨年度から3年計画で屋根修理を開始しました。カラスに茅を抜かれたり雨で傷んで薄くなった屋根に、新しい茅材を差し足し、古い茅は傷んだ部分を刈り込んでいきます。灰色がかかった古い茅に淡い黄金色の新しい茅が加わり、屋根がぐっと明るくなります。人間にたとえるなら、散髪後のような、お風呂あがりのような。

この「ほいす」が発行される頃には、主屋の裏側の屋根修理が終わっていることでしょう。ぜひ、ここにこしている古民家に会いにきてください。(田中)

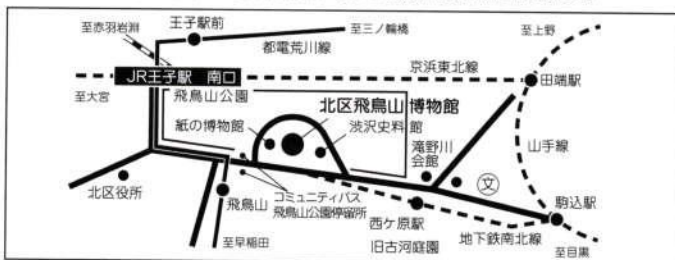
利用のご案内

- 【開館時間】 午前10時～午後5時
※観覧券の発行は午後4時30分まで
- 【休館日】 毎週月曜日
(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)
年末年始(12月28日～1月4日)
※このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	一般	個人	団体	三館共通券
★年齢が確認できる証明書をご提示ください。		300円※	240円	720円
高齢者(65歳以上)	150円★			
小・中・高	100円		80円	240円

○小学生未満は無料 ○団体扱いは20名以上 ○三館共通券は当館のほか、渋沢史料館・紙の博物館をご覧になれます。(9/1～3/27は販売休止)
※障害者手帳をご提示いただいた場合は、一般券を半額でご利用になれます。(障害のある方お1人につき、介助者1名まで観覧料が免除になります。)



交通のご案内

- ・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・東京さくらトラム(都電荒川線) 飛鳥山停留場より徒歩4分
- ・都バス(草64、王40) 飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・Kバス(北区コミュニティバス) 飛鳥山公園停留所より徒歩3分
※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

編集後記

「なかなか梅雨が明けないな」と思っていたら、いきなりの猛暑続き…。今年の夏も館内がなかなか冷えず、皆様にはご迷惑をおかけいたしました。本号がお手元に届く頃には、幾分か過ごしやすくなっているのでしょうか。今年度下半期も催し物が盛りだくさんです。皆様のお越しをお待ちしております。(安武)

令和元年度下半期の催し物予定

秋

10月～12月

展示

- 特別展覧会「第18回奥山峠石と北区の工芸作家展」
..... (9/14～10/14)
- ・人間国宝に学ぶ! 鍛金体験講座 (9/21)
- ・陶芸を楽しみ学ぶ講座 (9/23)
- ・金工に親しみ学ぶ講座 (9/28)
- ・工芸の現場でモノ作り体験 (10/12)
- ・作家が語る! 作品解説 (10/14)
- 秋期企画展「古写真はわたしたちに何を伝えるのか?」
一写された幕末明治・北区の名所一 (10/26～12/15)
- ・肖像撮影体験! ー150年前の写真技法で写ってみようー (11/30)
- ミニ展示「凹みが語る縄文文化」 (12/21～3/1)
- ・講演会「縄文人と植物利用」 (1月中旬)

イベント

- 勾玉ストラップをつくろう! (10/5、6)

講座

- 文化財めぐり「北区の文化財ロードを歩く」 (10/4)
- 北区民俗学講座「北区の旧村地域を歩く! ー滝野川村編ー」 (10/19)
- 東京9区文化財古民家めぐり「旧松澤家住宅解説会」 (10/20)
- 北区遺跡学講座2019秋「七社神社前遺跡」 (10/22)
- ちびっこ体験講座「あすかやまのどんぐりで、おもちゃをつくろう!」
..... (10/26、11/9)
- 歩く勉強会～リチギにたどる区界 (11/3・4)
- 駅弁掛け紙の図像学 (11/16)
- 文化財講演会
「赤レンガ棟100周年 歴史的建造物が図書館に生まれかわるとき」
..... (11/17)
- 考古学講座「遺跡に行こう! 秋」 (11/23・24)
- 文化財公開事業「稲付の餅搗き唄」の実演と体験 (12/7)
- 知れば知るほど面白い江戸の暮らし「守貞謄稿」を読む (12/15)
- 第35回新聞から読む考古学 ー2019年下半期を振り返るー
..... (12/22)

冬

1月～3月

展示

- 小学校3年生対応展示
「来て、見て、さわって! 昔の道具展」 (1/7～3/1)
- 春期企画展「飛鳥山三百年展
ーいかにして飛鳥山は名所となったのか?ー」
..... (3/18～5/6)
- (回想のための)テーマ展示
「オボエテマスカ? ー懐かしの暮らしと道具ー」 (3/15～6/14)

講座

- 考古学講座(中級編)考古学を学ぶ ー装身具の話ー (1/18・19)
- 対話型鑑賞のすゝめ(見て→考えて→話して→聞く) (2/1)
- 川柳で知る江戸の暮らし (2/2)
- 北区の考古学(地域編)田端 (2/8・15・22)
- 考古学講座「遺跡に行こう! 春」 (2/29・3/1)
- 考古学講座「古代のモノづくり ー貝輪ー」 (3/14)
- 北区民俗学講座「民俗調査の理論と方法」 (3/21)

※催し物は仮称のものも含まれます。() 内の実施日は予定です。詳細は当館発行の催し物案内や北区ニュース、ホームページをご覧ください。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす43

【発行日】 令和元年9月20日
【編集・発行】 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
【印刷】 日本印刷株式会社